

# 会社説明会資料

---

---

2014年3月6日



三光産業株式会社  
SANKO SANGYO CO.,LTD.

(証券コード:7922)

# 目次



## ● 会社概要と業績推移 3～9

4. 業績推移
5. 売上構成
6. 業種別売上高の推移
7. 生産拠点
8. 成長ドライバーの転換
9. 既存・新規事業の売上高

## ● 2014年3月期 第3四半期決算報告 10～15

11. 第3四半期決算概要
12. 1～3Qトピックスと通期計画について
13. 四半期業績推移
14. 国内収益が改善
15. 四半期貸借対照表

## ● 今後の展開 16～27

17. 中期展開の柱
18. 事業環境と経営課題
19. 重点施策
20. タッチパネル関連事業
21. 新市場の開拓
22. 海外展開の今後の施策
23. 中国・光華産業の状況
24. マレーシア・サンコウサンギョウの状況
25. 中期数値目標
26. 株主還元・資本政策について

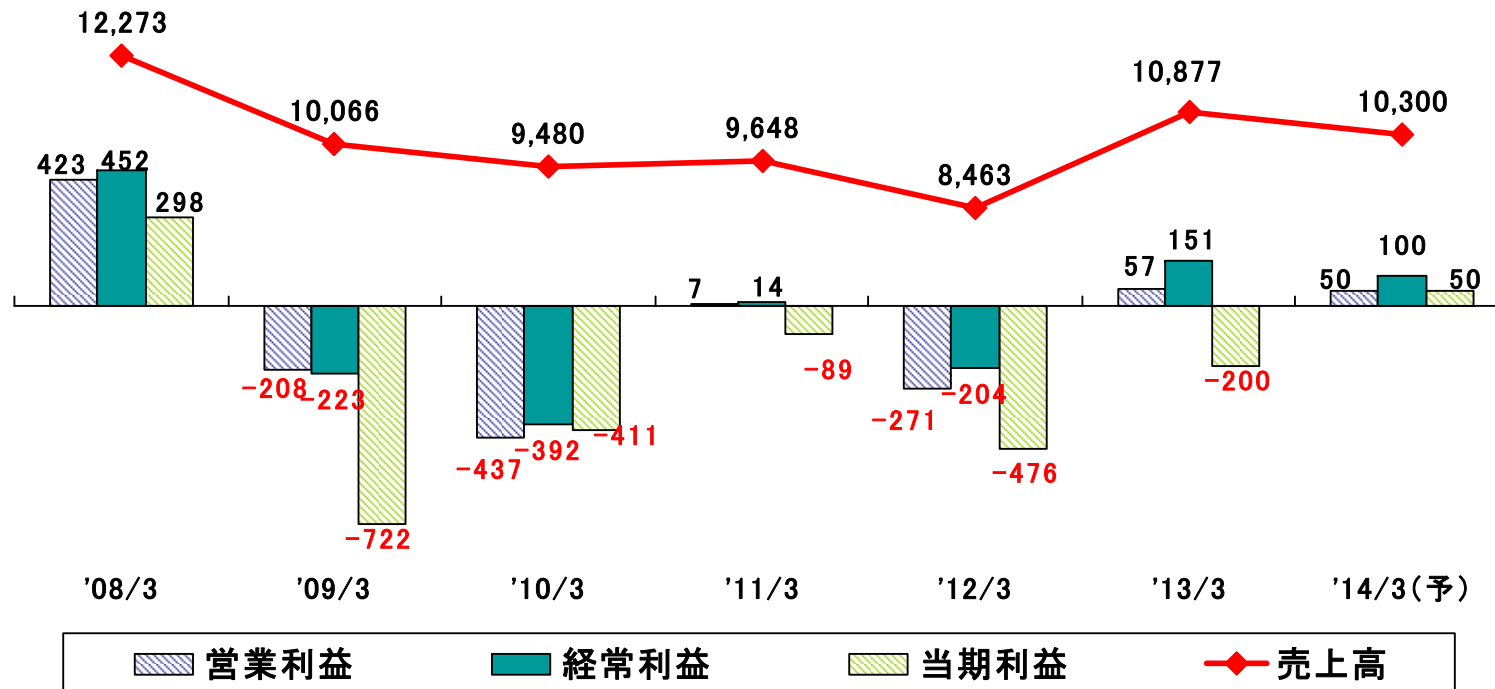
# 会社概要と業績推移

# 業績推移



- 前13/3期は、既存のシール・ラベル印刷は引き続きメーカーの海外移管にともなう国内受注の減少が続いたが、タッチパネル関連事業が大型案件の獲得などにより増加し、大幅増収となった。国内生産体制の再整備による合理化効果もあり、営業・経常利益は黒字転換。
- 今14/3期においては、前期の大型案件がなくなるため減収の見込み。営業利益においては、さらなる効率化を進め、前期並みの50百万円の確保を目指す。

業績推移(百万円)

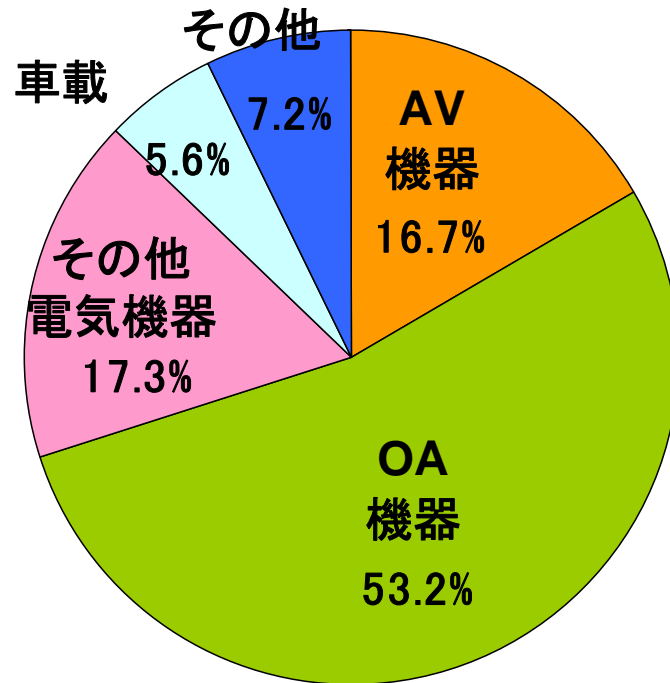


# 売上構成

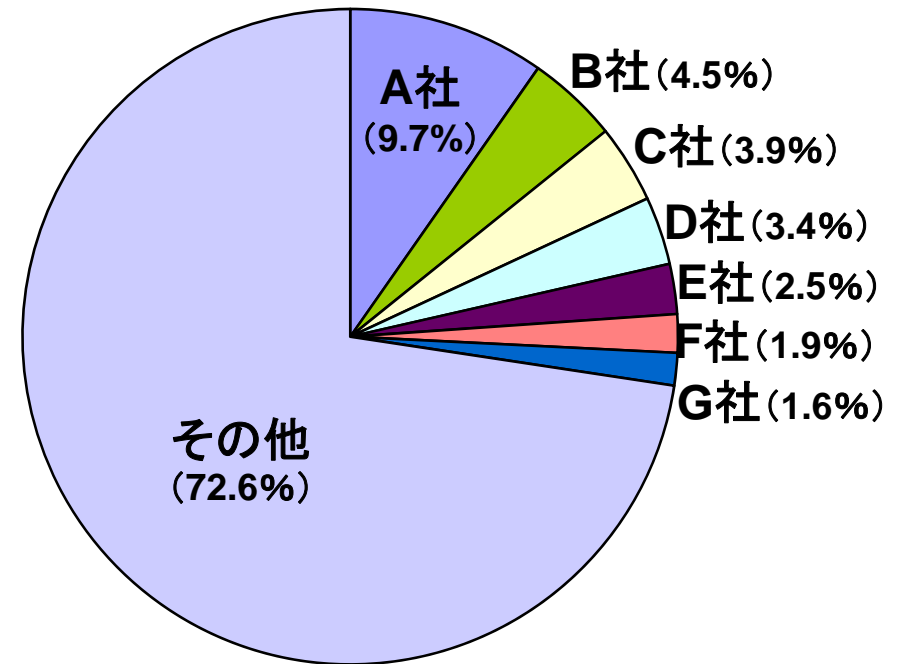


2013年3月期

業種別売上構成(連結)



顧客別売上構成(単独)

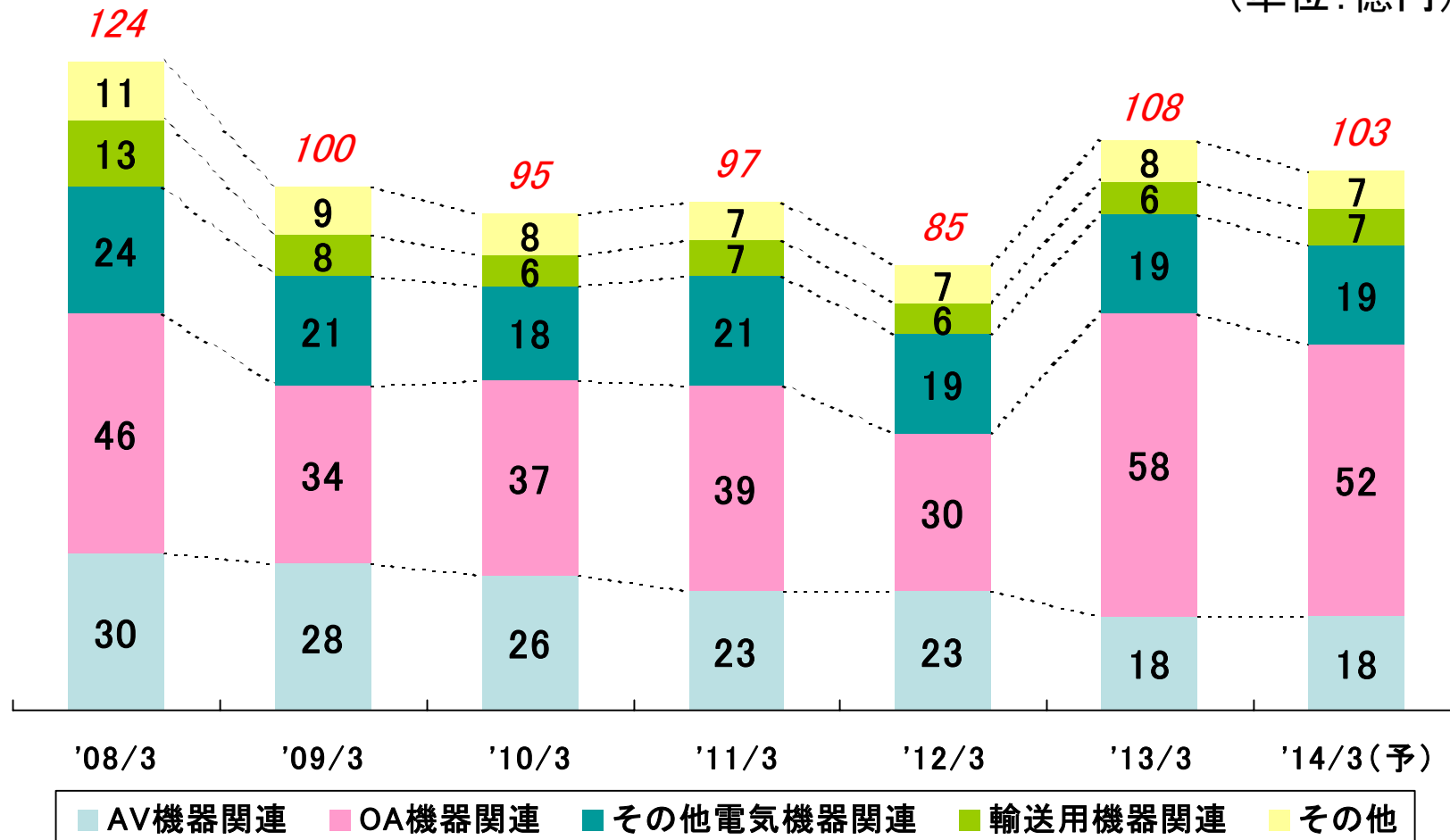


NEC TDK アルプス電気 オリナス ソニー 凸版印刷 パナソニック 日立製作所 富士ゼロックス 三菱電機等  
約1000社(敬称略) (五十音順)

# 業種別売上高の推移



(単位:億円)



# 生産拠点



従業員数2013年12月現在：生産実績13年3月期 単位：百万円

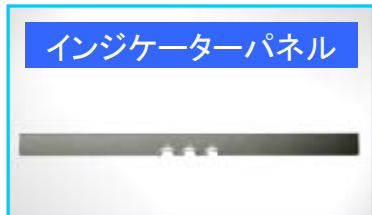
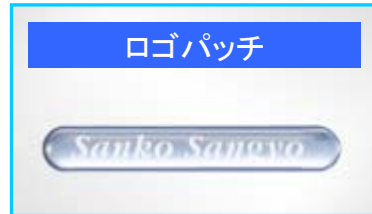
	所在地	印刷方式	建物面積 <sup>m</sup> <sup>2</sup> (従業員数)	生産実績
方南工場	東京都杉並区	シール主体	1,211 (17)	312
千曲川工場	長野県佐久市	輪転機主体	2,406 (9)	229
川越工場	埼玉県川越市	オフセット主体	4,578 (28)	634
大阪工場	大阪府東大阪市	シール・シルク主体	948 (15)	334
マレーシア	セラゴン州 シャーラム市	シール・シルク・輪転機主体	2,986 (142)	391
中国深圳	中国深圳市	シール・シルク・輪転機主体	2,200 (305)	1,244
三光プリンティング	東京都板橋区	シール主体	611 (18)	214

※大阪工場は賃借物件

# 成長ドライバーの転換



シール・ラベル印刷  
—従来の成長ドライバー—

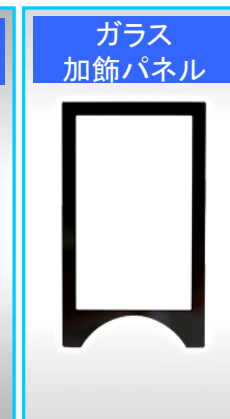


電池シール



タッチパネル関連製品  
—今後の成長ドライバー—

※画像表示パネルの「印刷段差吸収技術」において、特許を取得

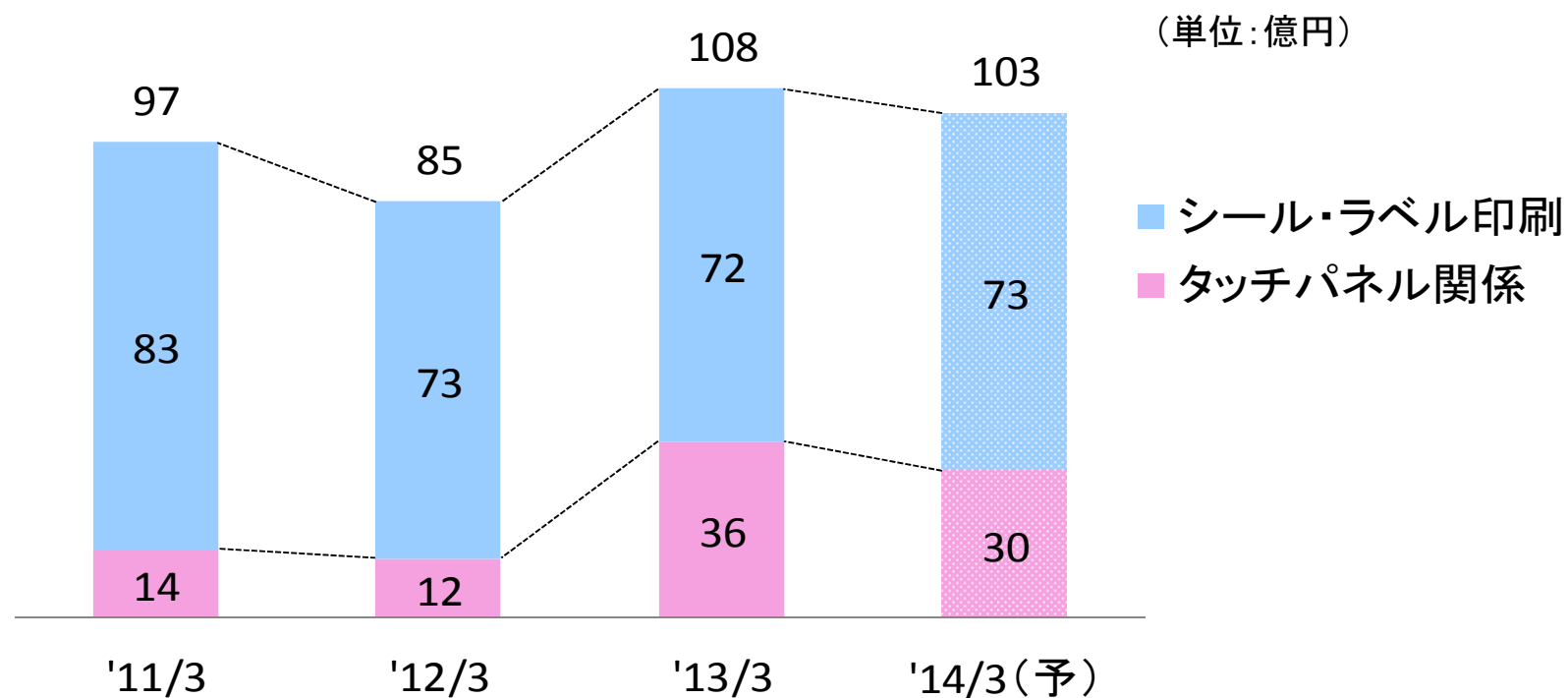




# 既存・新規事業の売上高



シール・ラベル印刷(既存事業)と  
タッチパネル関連製品(新規事業)の売上高推移



2014年3月期  
第3四半期決算報告

# 第3四半期決算概要



単位:百万円, %

	13/3期 1~3Q累計		14/3期 1~3Q累計			14/3期 通期計画		
	金額	構成比	金額	伸長率	構成比	金額	伸長率	構成比
売上高	8,032	100.0	7,016	▲12.7	100.0	10,300	▲5.3	100.0
AV機器	1,337	16.7	1,663	24.4	23.7	1,800	▲0.9	17.5
OA機器	4,252	52.9	2,584	▲39.2	36.8	5,200	▲10.1	50.5
その他電気機器関連	1,467	18.3	1,736	18.4	24.8	1,900	0.7	18.4
輸送用機器関連	451	5.6	500	10.8	7.1	700	15.9	6.8
その他	523	6.5	530	1.4	7.6	700	▲10.5	6.8
売上総利益	1,248	15.5	1,332	6.7	19.0	1,745	1.9	16.9
営業利益	24	0.3	▲19	—	▲0.3	50	▲13.5	0.5
経常利益	57	0.7	96	68.2	1.4	100	▲34.1	1.0
(当期)純利益	▲185	▲2.3	63	—	0.9	50	—	0.5

# 1～3Qトピックスと通期計画について



## 1～3Q決算のポイント

1. 前期は、グローバル携帯において1機種で18億円規模の大型案件を受注し、売上高が急拡大したが、今期は3Qまでの期間においては、その反動と新機種向け受注案件が目標通りに獲得できず、2ケタ減収となった。
2. 利益面では、低採算のスマートフォン向けタッチパネル関連製品の売り上げが減少したことと工場の一部再編等による効率性改善効果等により、粗利率は大きく改善したものの、売上の減少と試作費用の増加等による販管費の増などにより、営業利益は若干の赤字となった。
3. 営業外で為替差益を64百万円(前年同期は1百万円)を計上し、経常増益。

## 通期計画について

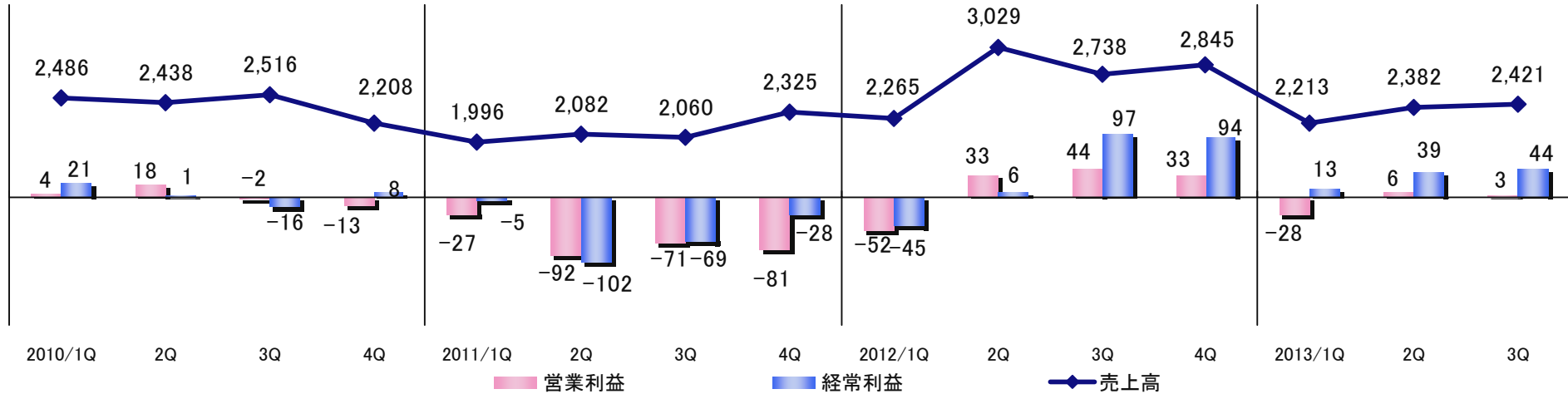
1. 2Q決算時に営業利益以下を下方修正。携帯・スマートフォン向けの新規受注を見込み売上高は期初計画を据え置いたが、現時点では計画達成はやや厳しい。
2. 引き合い案件自体は新規事業において、携帯・スマホのみならず、デジカメや車載などが活発であり、これらを確実に早期に獲得することで売上目標に近づける。

# 四半期業績推移



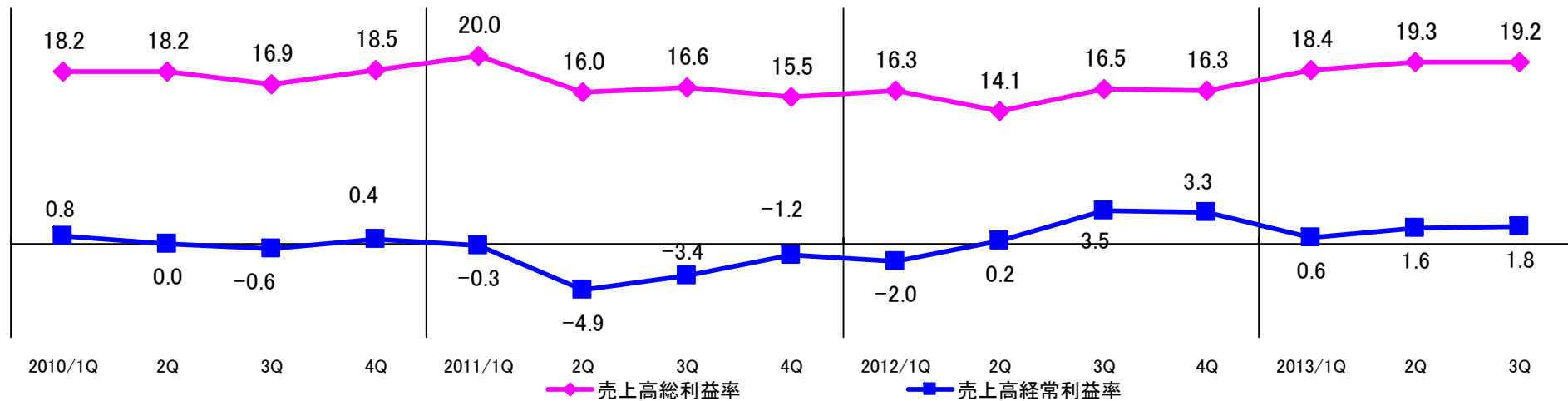
(百万円)

売上高・営業利益・経常利益の四半期推移



(%)

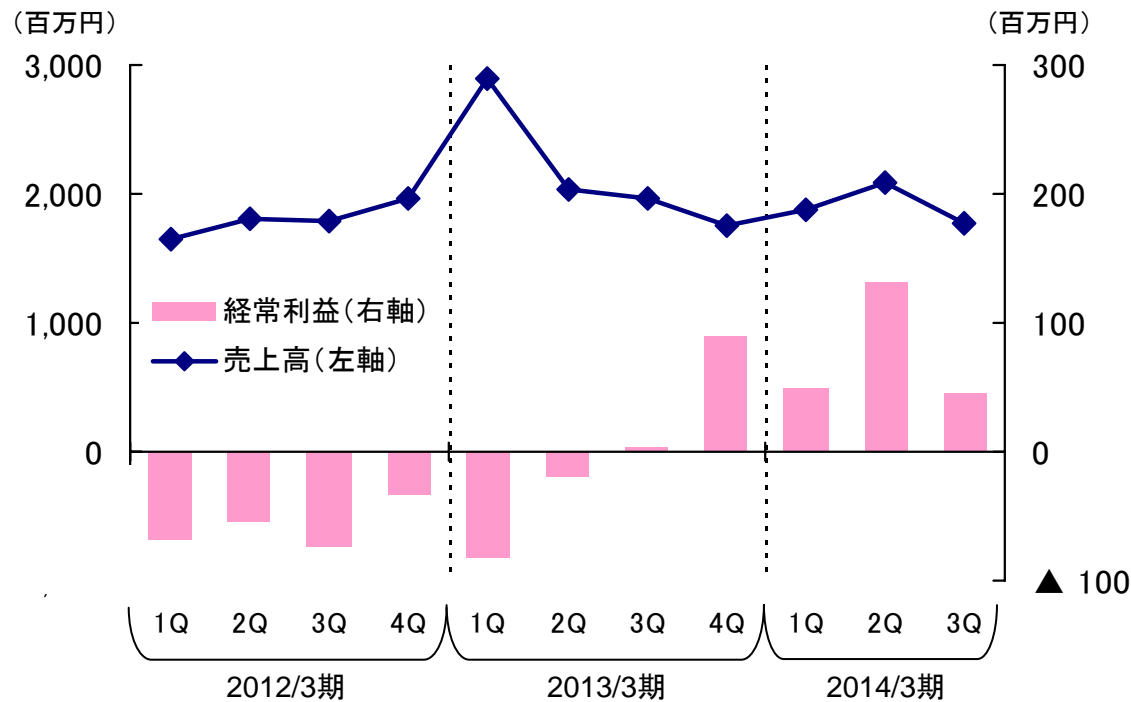
売上高総利益率・経常利益率の四半期推移



# 国内収益が改善



三光産業単体 四半期売上高・経常利益の推移



1-3Q累計 経常損益(前期→今期)

▲99百万円→226百万円  
(+335百万円)

2012年10月に希望退職募集による人員削減を実施。  
あわせて、生産体制も再編し効率化を推進。

1.5億円／年  
の固定費を削減

# 四半期貸借対照表



	13/3 第3四半期末	13/3 期末	14/3 第3四半期末
流動資産	(6, 436)	(6, 421)	(6, 849)
現金及び預金	2, 136	2, 480	2, 846
売上債権	2, 910	2, 866	2, 883
棚卸資産	1, 118	852	928
その他流動資産	271	223	192
固定資産	(4, 062)	(4, 050)	(4, 246)
資産合計	(10, 499)	(10, 471)	(11, 096)
流動負債	(1, 886)	(1, 681)	(1, 999)
買入債務	1, 531	1, 330	1, 626
その他流動負債	355	351	373
固定負債	(469)	(461)	(504)
退職給付引当金	414	398	394
その他固定負債	55	63	109
負債合計	(2, 356)	(2, 143)	(2, 503)
株主資本	(8, 397)	(8, 382)	(8, 402)
その他の包括利益累計額	(▲476)	(▲300)	(▲42)
少数株主持分	222	245	232
純資産合計	8, 143	8, 327	8, 592
負債純資産合計	(10, 499)	(10, 471)	(11, 096)

単位:百万円

# 今後の展開



# 中期展開の柱



- 従来型のシール・ラベル印刷は緩やかながらも成長を目指す  
⇒ 海外シフト案件を取りこぼしなく営業活動を実施
- 中長期的な成長ドライバーとしてタッチパネル関連製品の受注強化  
⇒ 国内各事業所・海外・外注の緊密な連携構築が課題
- 新規市場の開拓  
⇒ 社内横断的なプロジェクトチームを編成し商品開発を強化

# 事業環境と経営課題



## (タッチパネル関連製品) 新規事業

- 需要は順調に拡大。
- 当社においては、2011/3期より本格的に取り組み、前2013/3期に大型案件の獲得や新規機種への採用などにより大幅に受注を伸ばした。
- 受注競争激しく、粗利率が既存事業に比べ低いうえに、現在携帯・スマートフォン向けが中心で、製品ライフサイクルが短く売上・利益が不安定。
- 国内ー海外(深圳)の拠点間の営業面での連携強化、R&Dー営業ー生産ー物流のバリューチェーンの確立が課題。

今後も多様なビジネスチャンス

## (シール・ラベル印刷) 既存事業

- メーカーの海外生産移管の動きは変わらず。
- 為替の円高是正、アベノミクス効果などにより、受注環境は好転。受注ロットの増加、価格アップなどの兆しはあるが、反面競争も厳しく、楽観視はできない状況。
- 国内事業については、前期に実施した人員削減及び生産体制の再編効果により固定費削減。安定的に利益が出せる体制ができつつある。今後さらに踏み込んだ工場再編も視野に合理化を進める。
- 海外事業は、今後重要性の増す東南アジアマーケットでの受注強化が課題。
- 中国においては、前期開設した蘇州営業所での受注活動を本格化。電池ラベルを中心に引き合いは活発で、今後深圳工場の稼働率向上につながると期待。

限定的だが成長機会を探る

# 重点施策



## 国内外における 生産体制の再整備

### ①国内工場の統廃合を検討

- ・関東地区の生産拠点集約を検討
- ・あわせて人員の再配置を実施

### ②赤字が続くマレーシアの再建

- ・今期余剰人員(希望退職募集)によるスリム化と設備の入れ替えを実施(済)
- ・日本人スタッフの派遣と本社のバックアップにより営業面・管理面を強化
- ・2014年12月期の黒字化を目指す。

## タッチパネル関連 ビジネスの強化

### ①受注体制の強化

- ・継続的に案件に取り組める人員配置
- ・適正規模の案件に絞った受注活動の展開
- ・中国における商流の見直し(商社の絞り込み)と本社ー深圳の連携強化

### ②非スマホ向け受注の拡大

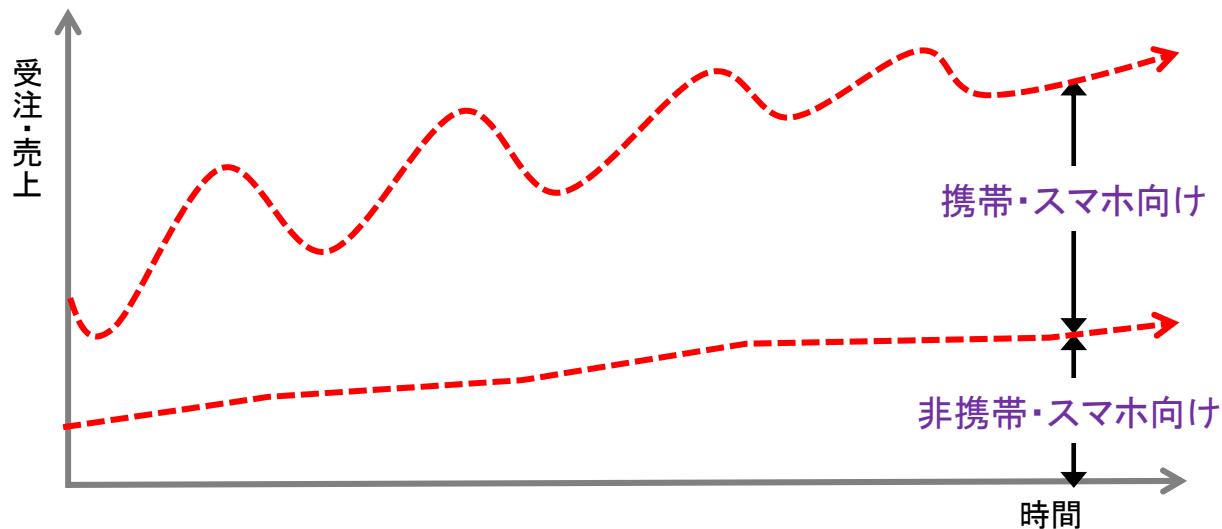
- ・デジカメ・カーナビ等ライフサイクルの長い市場を開拓。  
(現在5千万円/月程度まで確保)
- ・日系大手ディスプレイメーカーへの納入めざし営業体制を強化

# タッチパネル関連事業



携帯・スマートフォン	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 今下期に入り受注において苦戦強いられたが、2月以降持ち直しつつある。</li><li>➤ 来期に向け、携帯2機種1.6億円、スマホ向けガラスパネル1.5億円などがほぼ確定。また、新たに2機種獲得に向けて営業展開中。</li></ul>
デジタルカメラ	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 日系大手メーカー向けに5千万円／月の受注を獲得し継続中。</li><li>➤ 中小型ディスプレイメーカーとの取引に向けアプローチをさらに強化。</li></ul>
カーナビ	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 高級車種向けに量産開始。1千万円／月だが、4～5年の継続取引が見込まれる。</li><li>➤ また、新たに2機種の受注を目指しており、現在1千万円／月が確定。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ ゲーム機は小規模案件を継続。タブレットは新規獲得目指すも苦戦。</li><li>➤ その他スマートウォッチ等新規分野で営業活動を展開。</li></ul>

## タッチパネル関連事業の今後の拡大イメージ



- 携帯・スマートフォン向けは、短期的に波はあるものの、中長期的にも拡大傾向が続く。
- 収益安定化のため、携帯・スマートフォン以外の市場向けの受注を拡大。取り扱い分野の多様化とともに、1案件の取引長期化を図る。

# 新市場の開拓



## 「マイクロドット」使用の偽造防止シールを開発・受注開始

- 直径0.3~0.5ミリメートルのニッケル製の「マイクロドット」に、ロゴやマークのホログラム印刷とID番号のエッチング加工を施した偽造防止のセキュマークを、当社が粘着ラベルとして加工・販売。
- 既に秋田県のブランド米や日本酒に採用され、今後さらに農産物や食品などの産地証明、精密機器などの部品の偽装防止、車両などの盗難防止等の用途に啓蒙・普及活動を展開。



## ネット販売を視野に入れたバラエティグッズの展開

- ① 当社オリジナル品としてBBクリスタル®を販売
  - (株)シーティーアイの3Dクリスタル技術のpatent取得済み。
  - 第1弾としてBBクリスタル「あしたのジョー」を販売。
  - 月1作品の投入、1作品1000個 (@¥16,000) 販売目標。
- ② 3Dレンチキュラー
  - 従来の店頭POP、販促品としてだけでなく、インテリアとして作品を販売。



# 海外展開の今後の施策



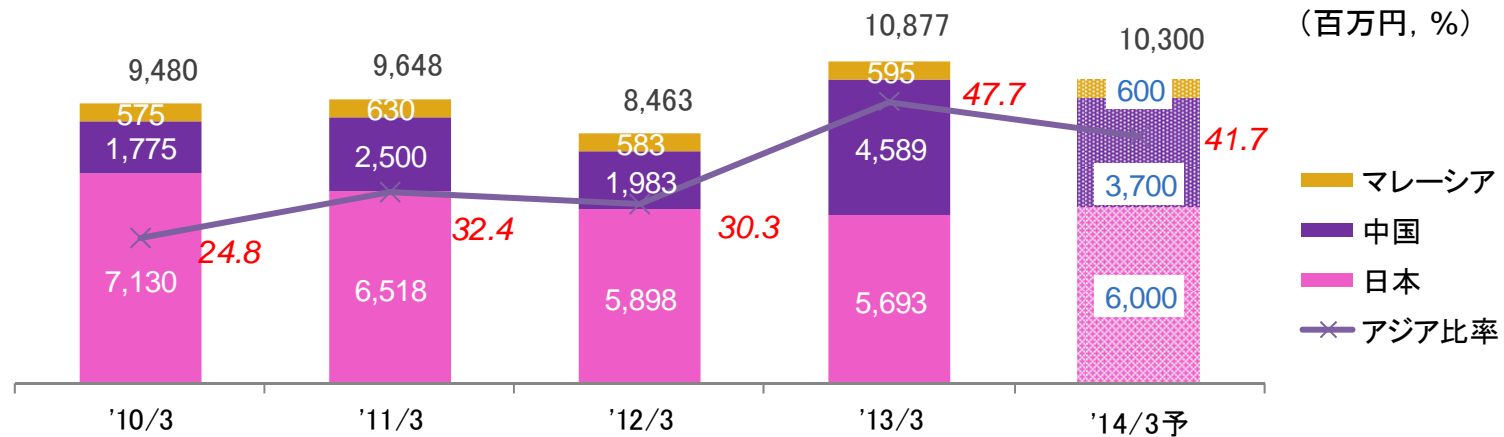
中国

- 一昨年の反日運動の影響が予想以上に長引き、昨年前半は特に工場の稼働率低下に見舞われ苦戦した。3名でスタートした蘇州営業所は、電池ラベルを中心に引き合いは活発。現状1千万円弱／月レベルの受注を確保。
- 今後、国内営業部門との連携を深めることで受注拡大を目指す。蘇州は深圳からの応援も仰ぎ新規開拓を進める。今年年末までに現在の3倍規模の受注目標。

マレーシア

- 人員削減・老朽設備の廃棄等リストラクチャリングを実施。一方で、最新設備の導入、日本人技術者・営業担当者の派遣等経営資源を積極的に投入。
- また、昨年本社内に海外推進室を設置。サンコウサンギョウの黒字化と合わせ、さらに重要性が増すと思われるASEAN市場での営業強化を図る。

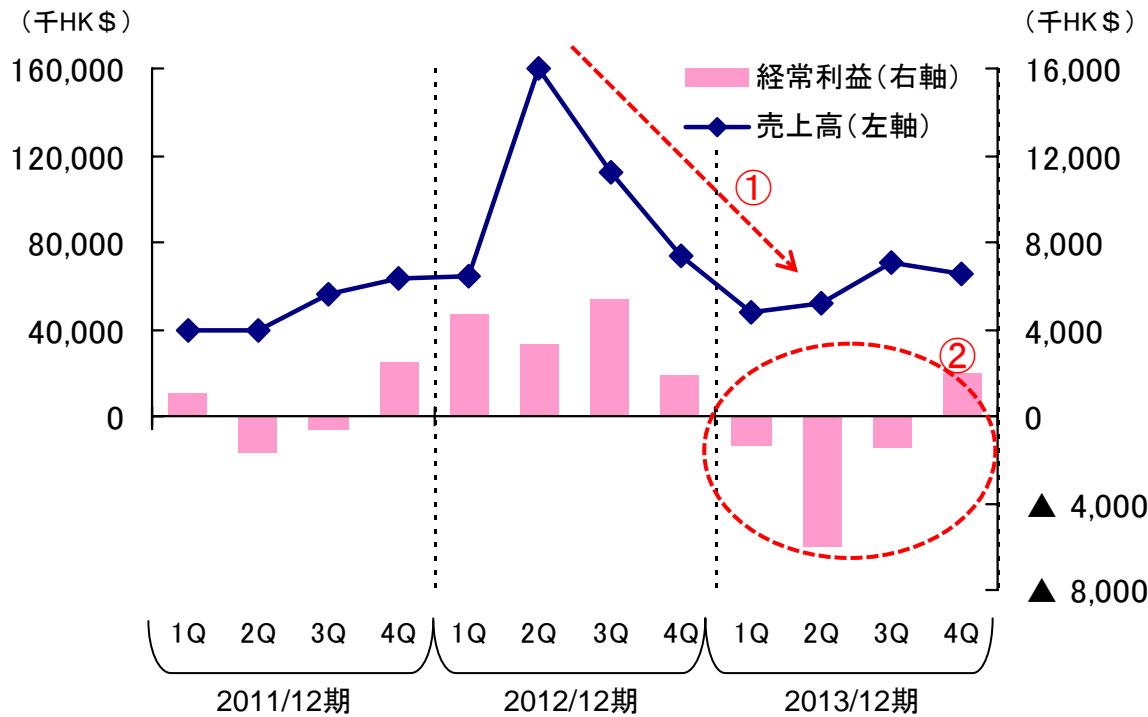
地域別売上高推移



# 中国・光華産業の状況



光華産業 四半期売上高・経常利益の推移

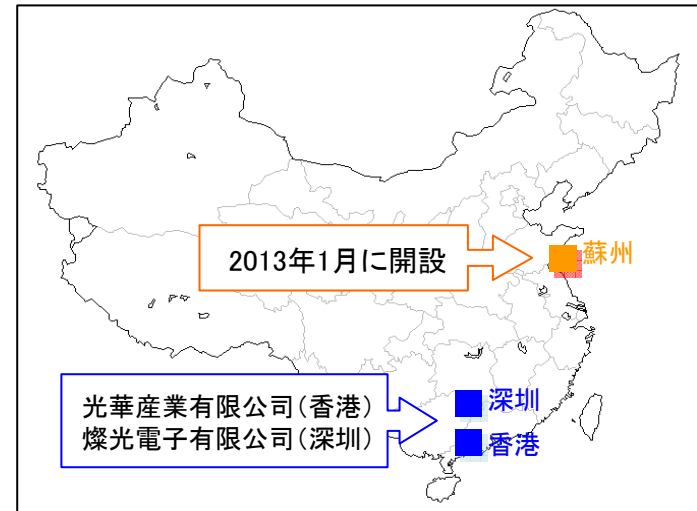


①タッチパネル大型案件解消後に営業体制整わず、反日運動の影響も長引き受注減、稼働率の低下。

②新事業拡大に向けて試行錯誤進めるものの、成果に遅れ。



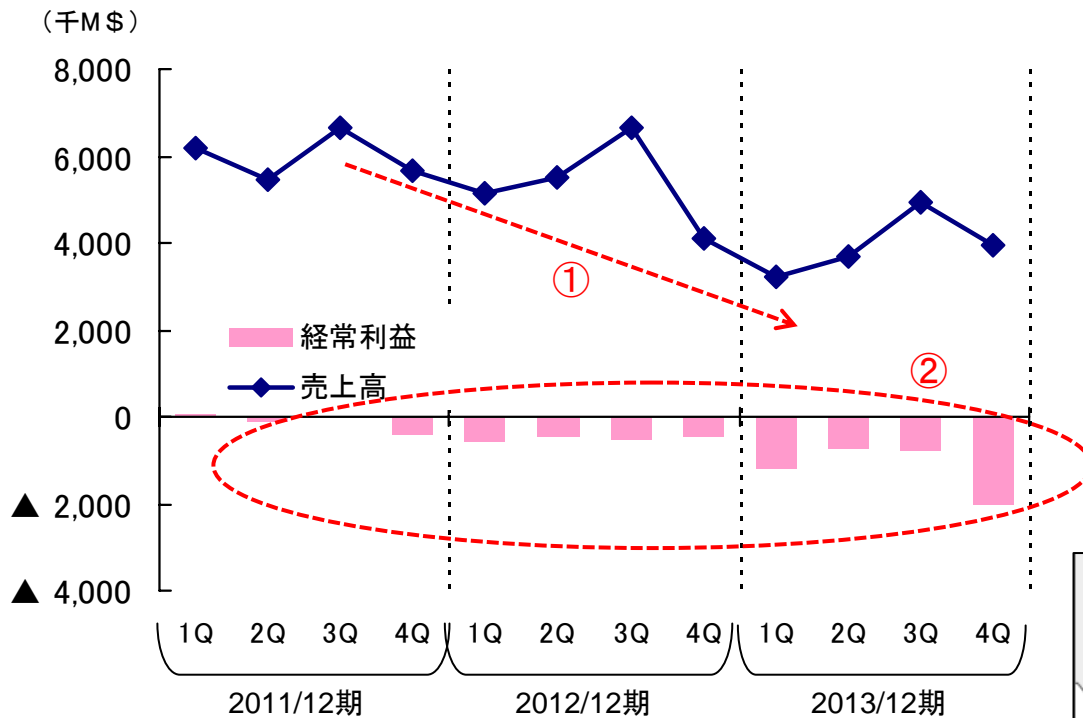
適正規模の案件にターゲットを絞り込み、足もと順調に回復。継続的な成長を実現するための営業体制をグローバルに構築する。



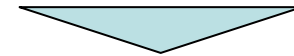
# マレーシア・サンコウサンギョウの状況



サンコウサンギョウ 四半期売上高・経常利益の推移



- ①コスト高等による日系企業の周辺国へのシフトに対応遅れ。
- ②現地企業との競争激化による採算の悪化。



最重点市場として、ASEAN域内の案件獲得のために早期立て直しを図る。

本社支援による改革の成果として、オーディオ筐体のアセンブリ加工(アルミ・ガラス製品)の受注に成功。



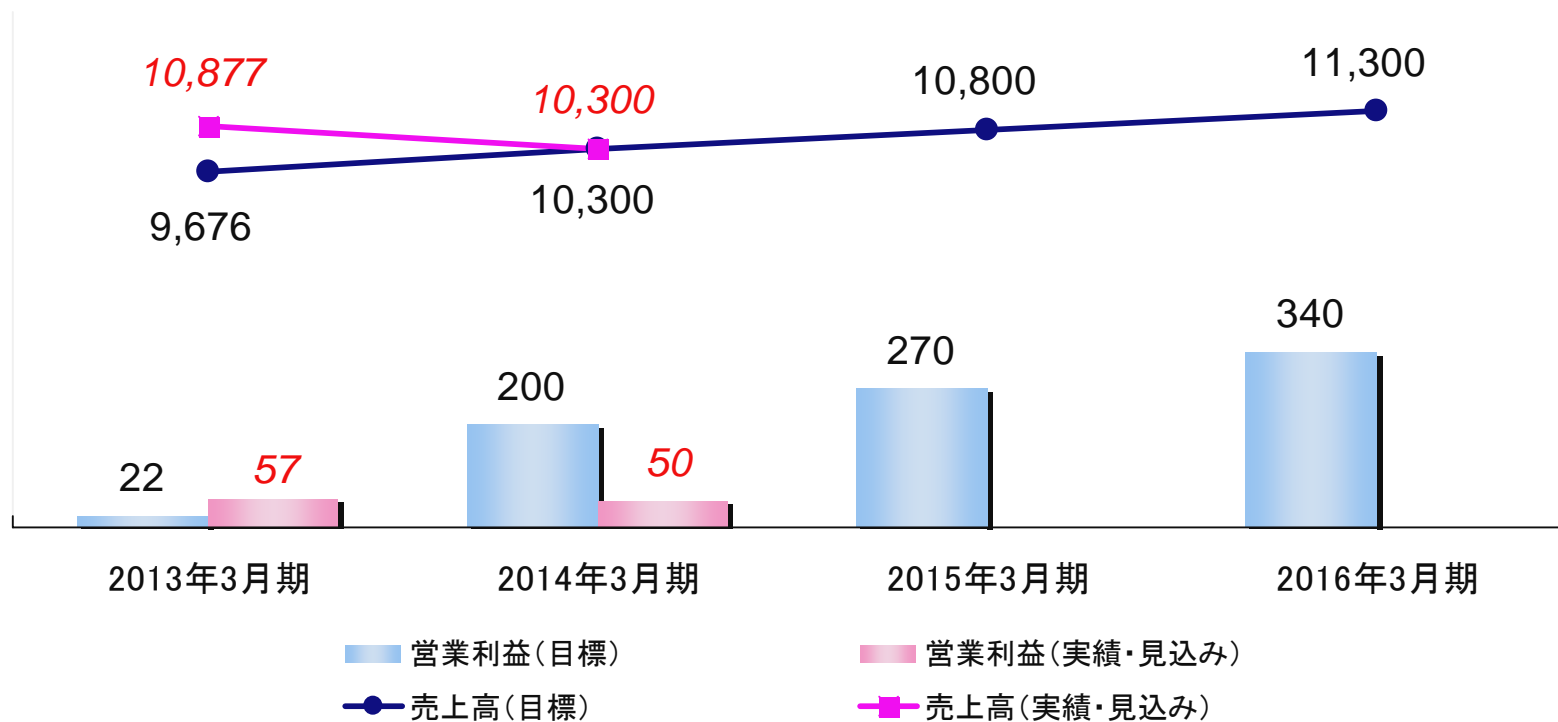


# 中期数値目標



- 今期営業利益は当初目標値を下回る見込み。
- 現時点では来期以降目標を据え置き、2014年3月期決算時にあらためて見直しの予定。

### 数値目標進捗状況（百万円）



# 株主還元・資本政策について



## 配当について

08/3期実績	13円	(13円の安定配当を継続)
09/3期実績	7円	(最終損失にともない減配)
10/3期実績	10円	(当初予定 普通配13円 ⇒ 普通配7円、50周年記念配3円)
11/3期実績	7円	} 収益状況・財政状態等を考慮し、7円配を継続(予定)
12/3期実績	7円	
13/3期実績	7円	
14/3期計画	7円	

→ 収益力の強化に努め、08/3期まで実施していた13円配当の早期復活を目指します

本資料に掲載されている三光産業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から三光産業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

## IRお問合せ

取締役経理部長

高橋 光弘

TEL: 03-3403-8134

E-mail: m-takahashi@sankosangyo.co.jp